



支援部ネット

令和5年度 特別号②
すながわ高等支援学校
研究 支援 部

初めに

この支援部ネットでは、支援教育に関する情報や校内での取り組みなどをお伝えしていきます。今回は、1年生で3週に渡り取り組んだ LGBTQ+に関する人権学習についてご紹介します。ぜひご一読ください。

多様性

- 1週めは12月の人権学習で学んだ「多様性」について振り返り、性のあり方も多様であることを学習しました。
- 人権が守られる「すべての人」は、外見や性格、考え方など、1人ひとり異なる特徴・特性を持っており、だれ1人として同じ人はいない。
- 「ちがい」は「まちがい」ではなく、「個性」であり「その人らしさ」。「ちがう」ことが当たり前。「ちがい」をなくそうとするのではなく、「ちがい」を認め合うことが大事。
- 人権感覚を持って「あなた」も「となりにいる人」も大事にする。
- 性のあり方、とらえ方について。「～らしさ」「～らしい」「～のくせに」「～っぽい」？
- 性のとらえ方として「男性」と「女性」の2つに分けて考えがちだが、現実には明確に分けることができないもので、「両方」や「どちらでもない」などもあり、1人ひとり異なるもの。自分の性に違和感や不安がある人は左利きの人と同じくらいの割合がいる。
- 人と違っている、LGBTQ+であるということでは差別したりいじめたりすることはあってはならない。

井上鈴佳さんによる講演

2週めは、元養護教諭で今は色々な学校で講演をされている井上鈴佳さんにご来校いただき、お話を聞かせていただきました。

井上さんは自分がレズビアンであると気付いたのは24歳のときだそうです。なぜそんなに時間がかかったのかというと、小中学校でこんなことを授業で教えてもらったことがなかったからだと言われました。授業で習うようになったのはここ最近のこと。もうちょっと早く教えてほしかった。先生たちは井上さんと同じで、学校で LGBT (井上さんは講演中「LGBT」を使用されていました) のことを習ってこなかった大人。生徒のみんなが先生たちの先生になって教えてあげて、と何度も話されていました。

前半は LGBT である友だちの紹介と、井上さんのパートナーであるそらさんを主人公にした紙芝居を見せていただきました。心の中に大きな「そらくん」と小さな「そらちゃん」がいるというそらさんが、いっぱいのかべの中で「そらくん」のことを隠していくようになった。でも井上さんと出会い、世界が変わった、というお話でした。当時に比べ、今はかべが小さくなってきて、全部がなくなったわけじゃないけど暮らしやすくなってきた。でも今も色々な困りごとがある、と話されました。

後半は、そらさんが今困っていることとして、外出先での「トイレ問題」についてワークショップを行いました。

(次の項目で紹介します。)

講演のまとめとして、LGBT の味方: Ally (アライ) についてお話いただきました。

周りに LGBT の人がいないわけじゃない。ほとんどの人が内緒にしている。なぜ? → 言ったらバカにされるかも、変に思われるかも。言わないといけないわけじゃないから。怖くて言えない。

もしそばにいる人が LGBT であることを教えてくれたなら、それはあなたを信じているから。大切なことを教えてくれてありがとう。何か困っていることはない? → と言ってあげて。聞いたことを勝手に他人にばらさないで、というアドバイスをいただきました。

自分のことも相手のことも大切にできる社会になればいいな。

トイレ問題

井上さんのパートナーでトランスジェンダーのそらさんは、生まれたての性は女性、心の性は1日の内でも男性のときと女性のときがあり、性別表現は「男性的」だそうです。ワークショップは、今「そらくん」が困っていることをどうしたら乗り越えられるか一緒に考えようというものでした。

困っていることとは外出時のトイレ。体が女性なので、女子トイレに行くことは仕方ないと諦めている。でも「そらくん」が女性用のトイレに入ると見た目で判断され「なぜ男の人がいるの?」となり、1カ月に2~3回は泣きながらトイレから出てくる。男性トイレに入ると性別は女性なので捕まってしまう。多目的トイレに入ると「なぜあなたがこのトイレを使っているの?」と怒られた経験で怖すぎて入れなくなった。

そこで「そらくん」が泣かずにトイレから出てくるにはどうしたらいいかをクラスごとで話し合いました。

以下は生徒から出てきた意見と井上さんからのフィードバックです。

「簡易トイレを持参する」「おむつを履く」→災害が起こったら使おうと話している。

「女装する」「かばんに可愛いストラップをつける」「かつらをかぶる」「ポーチを持っていく」

→試してみたが、そらさんの心が泣いてしまった。

「パートナーと一緒にトイレに入る」→井上さんたちが実際に実行している方法。

実行している方法がどのクラスからも出たことに井上さんは感心されていました。

また、「スタッフの人や会社の人に言う」という意見から、そらさんが今では会社に協力者が6人いること、事情を知ってくれている人がいると(できればみんな理解してくれるのが理想だが)、トイレに泣かずに行くことができると、協力者の存在の大切さを教えてもらい、上記の ALLY の話につながっていきました。

事後学習

最終週は、学習したことを一人ひとり1枚の紙にまとめました。1年生教室前の廊下に貼りだしていますので、ぜひご覧ください。

以下、生徒の感想の一部です。

・周りの人に思ったより LGBTQ+ の人がいると知りました。私は、そういう人のことを理解し、何か手助けをしたいと思いました。

・LGBT の助けとなる ALLY になって少しでも助け舟を出せたら良いなと思いました。

・いじめ的な言葉を言うのでこういう授業は大切なんだなと思いました。

・言えないことを言える世界になってほしいと思いました。誰もが生きやすい世の中になってほしいと思います。